

平成30年度第2 回北海道農業・農村振興審議会 議事概要

1 日時 平成30年10月11日（木）13:00～15:20

2 場所 T K P 札幌カンファレンスセンターカンファレンスルーム 6 A

3 議題

(1) 正副会長の選任について

- ・会長に柳村委員、副会長に堂地委員を選任

(2) 主要農作物種子生産部会員の指名について

- ・柳村会長が審議会委員の部会委員（4名）を指名、部会長は柳村会長が就任

(3) 部会付託事項の調査審議状況について

- ・資料1により説明

【委員からの主な意見等】

- ・道の条例の予算措置の継続性について非常に不安な部分もあるので、条例制定後に向けて、きちんと予算措置の上、この条例が正しく適用されていくことを是非ともお願いしたい。

(4) 台風21号及び胆振東部地震による被害の状況等について

- ・資料2により説明

(5) 北海道農業・農村をめぐる情勢について

- ・資料3により説明

(6) 第5期北海道農業・農村振興推進計画の中間点検について

- ・資料4により説明

(7) 意見交換

【委員からの主な意見等】

- ・G A P 導入産地の割合は高い状況（H28:73.8%）とされているが、自分の地域ではそのような状況にはないのが現実。
- ・日頃より太陽光などの自然エネルギーの活用注目している。胆振東部地震による停電の際に行われていた自家発電のうち、自然エネルギーによるものはどの程度あったのか知りたい。
- ・家族経営協定は20年以上前からあったが、ここにきて横ばいの状態で、まわりを見ても誰も取り組む人もいないので、この際、新たな制度にして、もう少し活性化するようにお願いしたい。
- ・せつかくこれだけの技術と資源、耕地面積、気候等を有しているので、大きな目標を立てて、それに向かってメリハリをつけた政策が必要。
- ・北海道は、日本の他の地域との比較よりは、むしろ、海外の素晴らしい農業に取り組んでいる国との比較をして、北海道が何に力を入れるべきかを検討していくことも必要。
- ・将来を見据えたとき、法人が北海道農業の牽引役となるものと思っており、自由で果敢にチャレンジする経営者をどんどん育成していくことも大切であり、関係機関が連携して、しっかりとした経営のできるようなサポートを行い、法人の経営発展につなげていくことが必要。

- ・現場では人材が不足しており経営維持が厳しい法人がある中、外国人の特区制度に期待していたが、認められずに残念。人材不足の中、外国人研修制度の他、外国の農業大学校からのインターンシップ生を受け入れ、将来の雇用就農に結びつける取組も検討しているところ。
- ・農業界だけではなく北海道全体で、現場で働く人材が不足しているので、関係機関で知恵を絞って、地域への移住定着を促進する取組を進めて欲しい。
- ・自然災害によって食料の安定生産や供給が危うくなるという現状の中で、生産基盤整備が果たす役割は、防災・減災という立場からも大きいものと考えており、農業生産基盤の整備については、計画的に行われなければならない。
- ・5期計画の中間点検において、水田の整備率などの整備の状況がフォーマットの中でも見て取れるような、あるいは資料の中でしっかり表現して、基盤整備の必要性を訴えて欲しい。
- ・種子条例もしっかりとしたものを作って欲しい。民間事業者の参入促進に関し、民間事業者が外国大手企業が参入してくることに不安を感じている。
- ・近年、北海道の気象が変わってきているような気がしており、一昨年台風災害により被害を受けた農地は、復旧事業により形は戻ったが、地力は戻っていない状況にもあるので、農業・農村の現状把握を行う際には、異常気象の影響も数値的に勘案していく必要がある。
- ・エゾシカ、熊、そしてアライグマなど鳥獣被害が深刻な状況で、山麓地帯の方々には非常に苦慮されている話を聞くので、有害鳥獣対策なども点検項目に加えて欲しい。
- ・後継者はいるがパートナーがいない経営が多く、深刻な課題となっている。
- ・畜産ではクラスターなど良い補助事業があるが、畑作ではクラスター事業のような使い勝手の良い事業がない、あってもポイントが獲得できず、家族経営が主体の十勝地域では採択されにくいという話を聞く。
- ・今回の地震では停電で農業関係にも被害が生じたので、停電となっても被害が生じないような方策を考えて欲しい。
- ・最近、若手農業者が働き詰めで疲れて活気がないようにみえる。若者がもっと魅力を感じ活気がでる政策を打ち出して欲しい。
- ・乳用牛も肉用牛も市場価格が好調で、今後農家数を増やすには好条件であるが、新規就農者には非常に厳しい状況にあり、好調だけでも不安がある。新規就農を考える人や若い農業者が今後農業を続けていく上で、この状況を如何に理解するかということが不安払拭のためには必要。
- ・中間点検では、技術開発の展望に対する進捗についても確認したい。
- ・海外の市場開拓について、アジアを中心に行われているが、その成果や成果に対する評価、また、アジア以外の国への市場開拓の状況について確認したい。
- ・担い手の育成に関し、道内の農業高校や道立農業大学校などの役割は非常に重要であるが、大学との連携によって対象人数も増えると思うので、何か連携してできることを考えられないか。
- ・農村には人を豊かにする魅力がたくさんあることを実感。しかし町内には条件に合う働き場がなく生活の維持に苦勞している。
- ・新規就農者対策について、農村に魅力を感じて移住する方もおり、そこで農業に触れて就農を目指す方もいると思うので、若者に対し農村での暮らしの魅力を発信すべき。
- ・地域おこし協力隊が道内でどの様に活躍され、どのような効果をもたらしているか、地域おこし協力隊が取り組む、地域資源を活用した商品開発にどの程度の予算が措置されているのかを道が把握されているかを伺いたい。

- ・若い人や移住者ならではの意見やアイデアを柔軟にとりいれている地域は活気があり、またPRも上手であると感じる。こういった地域の魅力を増やすことが、移住者や新規就農者、パートナーの確保などにつながっていくものと考えている。
- ・指導農業士になる女性がなかなか増えていないが、指導農業士になるためには、農業収入や借入金、経営規模、そして町やJAなどの推薦などが必要と聞いており垣根が高いと感じており、女性に対してはそこまでの垣根がなくても良いのではないかという気がしている。
- ・地域の若い新規就農者から、自分が指導農業士になれば、新規就農希望者をたくさん受け入れて、新規就農者を増やすことができる、という話をされたことが印象に残っている。
- ・地域の生産者に野菜を供給して地域の消費者に販売するイベントを行っているが、今年は天候のせいもあり野菜があまりないと生産者から言われて困っている。天候は仕方がないが、冬の野菜販売にどう響いてくるのか心配している。
- ・北海道農業を発展させていくには、後継者が必要だと思っているので、後継者が減少する要因を道がどの様に分析しているのか教えて欲しい。
- ・今後、YES!clean農産物の作付面積を拡大する目標であるが、消費者に対し、クリーン農業による農作物の良さを、どの様に広めていこうとしているのかを教えて欲しい。
- ・昨年末に向けて「食べ残しゼロ運動」を実施し、その効果があったと認識している。今年もこれから宴会シーズンに入るので、引き続き運動を強化し、食品ロスの減少をPRして欲しい。
- ・自ら生産した農産物を加工した商品化の相談が多いが、加工製造ラインの設備投資は非常にハードルが高く、初期段階は小ロットを委託製造で行うことを勧めており、こうした委託可能な工場の事例をまとめた小冊子などがあると、6次産業化への一歩が踏み出せるのではないか。
- ・中間点検内容を議論するに当たり、道がやるべきこと、JAがやるべきこと、個人がやるべきことなどを分けて明記する必要がある。普及事業などは予算も人員も減らされ、現場で農業者が求めているものにはなっておらず、持続可能な農業を目指すためには議論が不足している。
- ・農業振興によって原材料となる農産物が安定的に良質なものが手に入ることは良いが、これを進めていく中で農村の疲弊や、地域コミュニティの損失がないように、農業政策と農村政策の両立をお願いする。
- ・従業員確保が大きな課題としてクローズアップされ、外部の人材をいかに確保するかが対応の方向となる中、その人材の定着も大きな課題。若い人材の定着には経営面だけではなく生活面の対応も不可欠であり、農業と農村を関連づけた、北海道の特徴に見合った振興策が必要。

(8) その他

- ・特になし

以上